



特集

# 30年産を見据えた「いわて純情米」の産地確立に向けて

～確実な販売実践に向けたマーケットインへの事業転換～

米穀部



## 季節のエッセー いわての野草

文・澤口 たまみ  
絵・永澤 美貴子

### 「オオハナウド」

(セリ科)

葛巻町では、この草を「ベゴボンナ」と呼ぶ。ボンナとは、春の山菜として人気の高いヨブスマソウの別名。

オオハナウドの芽生えが、牛たちにたいへん好まれることから生まれた方言だ。

かつて、牛を飼っていた人々は、春を待ちかねたように野山へ出て、この草の芽生えを背負ってきたものだという。

花のころには、身の丈ほどにも達しているオオハナウド。

いつの間にかこんなに育ったのかと、その成長力に驚かされる。

人々を、オオハナウド採りへと向かわせたものは、この頑丈な草にあやかっ、牛たちがスクスクと育つことを願う、切実な祈りだったのかも知れない。

畜産の近代化とともに、ベゴボンナという素朴な方言や利用法は、人々の心から消え去る運命にあるのだろうか。

参考資料: 澤口たまみ著『岩手の野草百科』(岩手日報社発行)より

純情産地発 クララー KLARA vol.803 2016.6

タイトルのKlara (クララー) は、宮沢賢治の手帳に記されている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

みんなの力で!



がんばろう!岩手 純情産地いわて

### contents

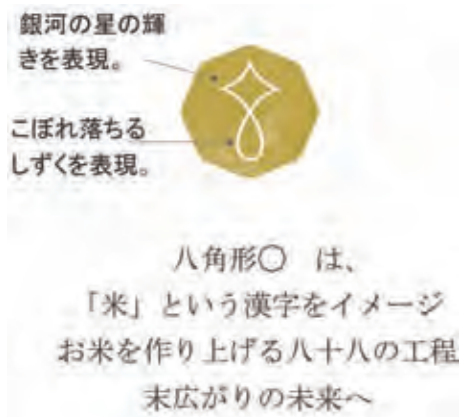
季節のエッセー いわての野草	02	JAタウン いわて純情館	06
みんなの分教場	07	報告! 出向く活動班	08
特集 30年産を見据えた「いわて純情米」の産地確立に向けて	03	純情むすめ卒業	09
消費地だより	06	ニュースワイドアングル	10



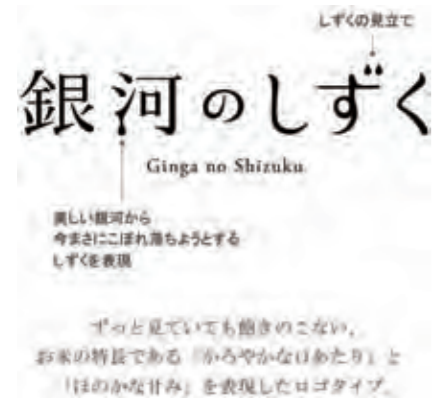
美味しさを生み出す9つのポイント



ロゴマークを構成するモチーフ



ロゴタイプのデザイン



「銀河のしずく」ブランド化戦略【概要】

■名前の由来

「銀河」は、キラキラと光る星空から、お米一粒一粒の輝きをイメージさせ、また、宮沢賢治の作品のタイトルにも使用されており、間接的に「岩手」をイメージさせます。「しずく」は、お米の特性である、つや、白さなど、美味しさを表現しています。

■品種のコンセプト

白くて、つやがあり「かるやかな食感」と「ほのかな甘み」を楽しめるお米

■ブランドイメージ

洗練されたお洒落なイメージ

■めざす姿

新しい岩手の顔として、県内外から広く愛されるお米

○「銀河のしずく」とは  
「白くてつややか、かるやかな食感。」そんなお米を開発した岩手県の本気度が、確実に消費者の皆様へ伝わり、食卓の新しい主役になるお米です。

○こだわりの生産  
栽培マニュアルや栽培研究会での基準をしっかりと守り、お米が好きな消費者の皆様への期待に応える「特A評価」の美味しいお米を届け続けます。

○お客様とのコミュニケーション  
「銀河のしずく」のブランドイメージや、産地の想いが伝わるプロモーションを展開し、より多くのお客様に美味しさを実感していただきます。



米袋イメージ

ライフスタイルの変化・食の多様化や少子高齢化に起因する米の消費減少は更に進み、米の販売環境は一段と厳しさを増します。また、北海道の「ゆめぴりか」や山形県の「つや姫」にくわえ、新潟県「新之助」・青森県「晴天の霹靂」など各産地とも良食味新米種が市場デビューをしており、今後ますますブランド米による産地間競争が激化してきます。

そのようななか、今後とも「いわて純情米」が、消費者や実需者から支持され、その地位を確固なものとするためには、JAいわてグループ・関係機関が同じ方向性で一丸となった取り組みが必要となりますので皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

4. おわりに

1. はじめに

国は平成30年産米から生産数量目標を廃止し、産地の自主的な取り組みによる需給に応じた生産・販売といった農業政策への転換を進めています。このような変化に対応するため、早急に環境整備を進め、具体的なスキームづくりを行うことが重要になってきています。

このことから、本会は、お米の主要産地としての確固たる地位を確立することを主眼に、実需者ニーズを的確にとらえ、産地へのフィードバックにより、主食用米・水田活用米穀を含めた数量を確保することで、取引先（実需者）との安定取引を進めます。

今回は、その重点実施策として、今次3か年（28～30年度）計画において、米穀部基本方針に掲げている①プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換と②県オリジナル新米種「銀河のしずく」「岩手118号」を軸にした新たな需要確保に向けた取り組みなど販売対策を中心に紹介いたします。

2. マーケットインへの事業転換による販売力強化

実行具体策

- 安定取引に向けた「見える化」（実需者・JAとの結び付き）促進
- マーケットインにもとづく計画生産の実践

(1) 安定取引に向けた「見える化」（実需者・産地との結び付き）促進  
食の多様化が進み、中食・外食など業務用需要

が伸長する状況をふまえ、実需者と産地（JA）とのマッチング機能強化を進めることで「見える化」を促進するとともに事前契約（複数年・播種前・収穫前等）などによる実需者との長期安定的な取引の拡充に取り組めます。

具体的には、主要産地として10万ト（見える化率80%）以上の主食用米の安定的供給を目指し、結び付きを促進、多様な契約・販売手法による安定販売を実践していきます。

(2) マーケットインにもとづく計画生産の実践

計画生産に向けては、実需者ニーズを的確に捉え、マーケットが求める米（品質・数量・価格）を、JAや多様な担い手へどのように生産提案できるかが重要であり、くわえて、柔軟な契約・販売対応も不可欠になってきます。

そのような状況のなか、本会として、JA（多様な担い手）としっかり対話したうえで、生産者ニーズに対応し、複数年契約などの契約栽培や買取販売等多様な販売手法も含めた柔軟な対応により、

■平成30年産主食用米・業態別生産販売目標 【単位:ト】

用途	業態	27年産計画	シェア	需要	30年産目標	シェア
家庭用	量販店	24,000	19.2%	→	24,000	19.2%
	生協	16,000	12.8%	→	16,000	12.8%
	計①	40,000	32.0%		40,000	32.0%
業務用	中食(CVS・持帰弁当等)	30,000	24.0%	↗	35,000	28.0%
	外食	20,000	16.0%	↗	25,000	20.0%
	計②	50,000	40.0%		60,000	48.0%
小計③(①+②)	90,000	72.0%		100,000	80.0%	
	変動要素④	35,000	28.0%		25,000	20.0%
合計⑤(③+④)		125,000	100.0%		125,000	100.0%

■主食用米 事前契約数量実績および目標 【単位:ト】

契約方式	26年産	27年産	30～32年産目標
事前契約	26,081	26,081	
収穫前・播種米契約	21,571	44,866	
計	47,652	70,947	75,000～100,000

新品種 販売に向けた今後の日程

28年10月7日(予定) 「銀河のしずく」デビューイベント  
28年11月下旬 「岩手118号」名称発表

■県オリジナル品種生産販売計画 【単位:数量ト、面積㌔】

銘柄	28年産	29年産	30年産	32年産	比率	
銀河のしずく	数量	500	3,000	6,000	12.0%	
	面積	100	600	1,200	3,000	—
岩手118号	数量	—	500	3,000	5,000	4.0%
	面積	—	100	600	1,000	—
主食用米全体		125,000	125,000	125,000	125,000	100.0%

3. 県オリジナル新品種のブランド化による販売強化

岩手県と連携し新品種「銀河のしずく」・「岩手118号」のブランド化を推進することで、新たな需要を確保するとともに、実需からの本県産米の全体評価の底上げを図ります。

なお、新品種は、関係機関と連携をとりながら、「特A評価」の継続取得を基本に、品質・食味ともに全国トップクラスの評価を獲得し、新しい岩手の顔として、県内外から広く愛されるお米を目指します。

また、プロモーション展開は、重点エリアを県外(首都圏)とし、全国の消費者をターゲットとし、知名度向上と良食味の訴求を主として、効果的な宣伝対策を実施します。

計画的な生産を進め、実需側・流通側・生産側のそれぞれにとって良い取り組みができるよう進めていきます。



# みんなの分教場



園芸部 生産販売課  
技術主管  
菊池利行

## 「春まきたまねぎ栽培が本格化」



半自動定植機による定植作業



定植後のたまねぎ



6月下旬の生育(県北農業研究所)



7月下旬収穫直前のたまねぎ(九戸村)

岩手県をはじめとする東北地方や北陸地方のたまねぎ生産は秋植えであることから、越冬後の株の消失や抽苔等により作型が不安定で大きな産地はありませんでした。

### 岩手県のたまねぎ栽培

たまねぎは食卓に欠かせない重要野菜であり、平成二十六年年度の国内栽培面積は二万五千畝で、だいこん、ばれいしょ、キャベツに次ぐ第四位の品目となっています。この年の国内出荷量は百三万トンですが、三十五万トンが輸入されています。産地は北海道が第一位で一萬三千七百畝。全体の五十四%を占めています。佐賀県、兵庫県と続いており、この三道県で全体の七十%を超える面積となっています(農林水産統計)。

### たまねぎの現状

そこで東北農業研究センターが中心となり、冬を越さない作型「春まき栽培」に取り組んできました。この研究には軽米町にある県北農業研究所も参画し、研究成果として平成二十七年年度に「たまねぎ春まき作型の栽培法」が発表されています。この結果をもとに各地で試作が行われ、十分に栽培可能なことがわかってきました。

### 技術のポイント

技術のポイントは①「水はけのよい地方のあるほ場を選ぶこと」、②「春まきに適した品種を選ぶこと」、③「良い苗を四月中に定

今年度県内では花巻市や八幡平市などで一畝を超える大型栽培が着手され、春まき面積が五畝を超えるまでになりました。

全農も平成二十五年から三か年にわたる農研機構や全国の研究者の協力のもと「東北以南におけるタマネギの冬春まき栽培マニュアル」を完成させています。

全農では機械化一貫体系のための展示場を設置するとともに、生産者に対して定植機や収穫機、乾燥機などのリース事業を行っています。春まき栽培での新しい産地づくりと国産たまねぎのシェア拡大に向けて支援を続けていきます。

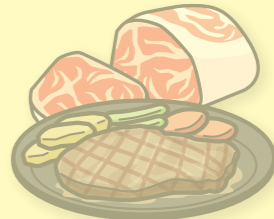
### 全農の対応

たまねぎは機械化一貫体系が可能な土地利用型品目であることから、集落営農組織などへの導入が期待されるほか、需要が拡大している加工・業務用品目としても注目されています。

植すること、④「生育後半が梅雨にかかることから病害虫防除を徹底すること」などです。また、この作型では本州産と北海道産の端境期である七月八月が収穫期となることから、高値で取引されることも期待出ます。



生産者・農協担当者みんなでワッショイ



今月のリポーター  
消費地販売課  
高橋 司

# 消費地販売部 消費地だより

純情ブランド消費地の「今」をレポートします。

## 平成28年度いわて牛県央枝肉共励会

5月12日、東京食肉市場において、平成28年度いわて牛県央枝肉共励会が開催されました。この共励会は、県央地域において「いわて牛」の品質向上と肥育農家の技術確立と畜産振興に寄与することを目的とし雌13頭、去勢13頭、計26頭の出品で開催されました。最優秀賞はいわて花巻農協の八重樫京一さんが受賞され、2,963円/kg(重量549kg)の単価がつけました。

体型、造りが良い牛も多く、生産者の方々の日々の努力が形となって現れた結果となりました。平均販売単価は昨年より約300円上がり高値で取引をしていただきました。市場購買者の方々には「いわて牛」を精一杯応援していただいております。首都圏にも「いわて牛」のファンが沢山いらっしゃいます。畜産情勢は非常に厳しい中ですが、生産者と消費者の懸け橋になるように「純情産地いわて」として安全・安心かつ美味しい「いわて牛」をお客様に届けるため、日々取り組んで参ります。

### 平成28年度いわて牛県央枝肉共励会

販売成績	頭数	平均枝肉重量	平均販売単価	平均販売金額
雌	13頭	457kg	2,622円	1,200,061円
去	13頭	533kg	2,676円	1,428,189円
合計	26頭	495kg	2,649円	1,314,125円



最優秀賞受賞枝肉のせり風景

入賞区分	農協名	氏名	性別	枝肉重量	単価	販売金額
最優秀賞	いわて花巻	八重樫 京一	去勢	549kg	2,963円	1,626,687円
優秀賞	いわて花巻	高橋 幸男	雌	442kg	2,803円	1,238,926円
	いわて花巻	泥金山酪農センター	雌	463kg	2,901円	1,343,163円
優良賞	いわて花巻	株高田畜産	雌	472kg	2,804円	1,323,488円
	新しいわて	中村 鉄男	去勢	513kg	2,816円	1,444,608円
	新しいわて	坂井 尚樹	去勢	551kg	2,825円	1,556,575円

産地直送通販サイト

## JAタウン いわて純情館

注目の一品!



季節限定のさくらんぼ「紅秀峰」  
お中元にもどうぞ

### 二戸産さくらんぼ「紅秀峰」

いわて随一のさくらんぼ産地、県北二戸からお届けする季節の逸品「紅秀峰」は甘みがあり、しっかりとした果肉が特長です。「佐藤錦」より赤みが強く大粒のさくらんぼですが、粒が大きいもの(2Lサイズ以上)を厳選した「紅秀峰 極」もご用意しております。期間限定の「紅秀峰」「紅秀峰 極」をお中元に、またご家庭用にもぜひご利用ください。6月30日から予約受付を開始。7月6日からの発送を予定しております。

JAタウン「いわて情報館」では純情ブランドを全国の食卓にお届けしています。

いわて純情館







# 出向く 活動班



今回の報告者  
担い手サポートセンター  
出向く活動班  
高橋 伸也

「担い手」に出向いて情報提供  
身近な課題をサポートします！



加工トマト防除方法検討会



トマト苗の生育状況確認

H28年度4月から「JAグループ農業担い手サポートセンター出向く活動班」に配属され、JA新いわてを担当しています。JA新いわては、三陸沿岸地区から北上山系、奥羽山脈にまたがる広範な地区を管内としています。地区別に7か所の営農経済センターを設置しており、各センターに配置されている9名のJA-TACと連携して各地区の「担い手」を訪問しています。



(農)中沢農産務所前で関係者の皆さんと

各地区ともに耕種概要に特徴があり、訪問対象となる担い手は、法人、集落営農組織から個人まで、いろいろな方がいらっしゃいますが、私は「担い手の経営確立のサポート」を出向く活動のテーマに掲げて取り組んでいます。

今回、写真でご紹介する(農)中沢農産(高橋金悦代表)は八幡平市で最初に法人化した集落営農組織であり、H28年の主要作物の作付面積は、水稲：50畝(主食34畝、飼料16畝)・小麦：13畝・そば：4畝、加工トマト1.2畝を営農する地域を代表する経営体です。

サポートセンターとして「重点訪問する担い手先」と位置づけており、同法人は今後も水稲の作付規模拡大を進める方針にあることから、全農県本部の営農技術課等と連携して定期的に訪問して最新の営農情報を提供しています。また、新規の飼料用米専用肥料実証圃設置等のコスト削減の取り組みをサポートしています。

一方で、同法人は水田農業の取組みにとどまらず、複合経営を目指した園芸作物の加工トマトの生産拡大にも注力しており、収益性向上に向けた収穫量を確保するための直近の課題を「病害虫



飼料用米播種作業

防除」としていることから、加工トマトの収穫量拡大と品質向上に向けた適切な防除方法確立の取組みをサポートしています。

契約販売先のご理解や全農県本部の園芸部技術主管の指導を得て、JA-TAC、園芸担当者、高橋代表等が出席した「防除研究会」を適時に開催、提供された情報や防除履歴、気象経過等を分析して、適切な薬剤と効果的な防除方法を明確にしたことから、本年度の加工トマトの栽培管理に取り入れられる予定です。

JAのTAC専任部署と連携しながら、将来の地域農業を担う「担い手」の身近に出向いて、ご意見とご要望をもれなく聞き取りJAに届けること、役に立つ情報をお届けすること、ひとつひとつの課題を誠実に対応することで、JAグループ農業担い手サポートセンターを基軸に、JAいわてグループ全体の業務改善の態勢を充実して「農家組合員の所得増大、農業生産の拡大」に貢献できるように取り組んでいます。

2015

# いわた純情むすめ卒業

これからも「純情産地いわて」を応援します！

ローズピンクの衣装で元氣いっぱい素敵な笑顔。「純情産地いわて」のPRに全国を飛び回った2015いわて純情むすめは、今月末で卒業を迎えます。1年間、本当にお疲れ様でした。



川畑 春海

いわて純情むすめとして活動してきたこの一年を振り返ってみると、さまざまな経験とたくさんの出会いに溢れた活動の日々ばかりでした。私は活動を通して、岩手の食材は生産者と消費者のどちらにも大切にされて愛され、全国から求められていると知りました。任期が終わっても周りの人に伝えていきたいと思っています。



北川 莉帆

純情むすめの活動から得たことは、数えきれません。岩手を伝えるために岩手を知り、岩手をより好きになった一年間でした。いつも励ましてくれた家族、友達、支えてくださった全ての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。この経験を生かし、これからも岩手を応援していけるよう頑張りたいと思います。



山口 菜那

卒業したくないです！最近、本気でそう思っています。それくらいこの一年間は私にとって大きくて、キラキラしたものでした。普通では経験できないようなことが一年中めぐるしく起き、多くの素敵な人たちと出会いました。感謝で胸がいっぱいです。お世話になった皆様、温かく見守って下さった皆様、本当にありがとうございました。



吉田 麻緒

純情むすめとして活動させて頂いたこの一年、かけがえのないものを得ました。人との繋がりや優しさ、岩手へ懸ける皆さんの思い、岩手の素晴らしさ、伝える難しさや悔しさ、全てがかけがえのないものです。一つひとつの思い出に出会った皆さんの顔が思い出され、より岩手っていいな、と思うのです。一年間見守って下さった皆様、そしてメンバー、心からありがとうございました。



西川 知奈美

「岩手のことを知りたい。何か力になりたい。」と応募した純情むすめ。岩手暮らし三年の岩手初心者でしたが、活動から岩手の魅力を沢山知り、岩手の農畜産物が全国で愛されていることを知りました。この一年は、挑戦と実りの一年でした。お世話になった皆様、応援して下さった皆様、本当に有難うございました。これからも私は、岩手の農畜産物を愛し、応援していきます！



## 今年も田植シーズン到来!県内各地の田植えイベント

5月16日(月)

### 生活協同組合ユーコープ 田植え交流会

JA岩手ふるさとと奥州市水沢区内の圃場で、生活協同組合ユーコープの職員や組合員9名を招き田植え交流会を開催しました。2012年に始まり今年で4年目。横浜市に本部を置くユーコープは、岩手県産ひとめぼれを販売しています。JA岩手ふるさと・JA全農いわてで職員らが田植え体験を通じ、県産米の魅力や生産者の思いを伝えました。

広さ25㍓の水田で、乗用田植機の操作と手植えを体験。手植えでは、足元をとられながらも泥の感触をたしかめ、丁寧に作業を行いました。秋には稲刈りを予定しています。



5月18日(水)

### 渋民小学校5年生が田植え体験

盛岡市玉山区渋民の圃場で田植え体験イベントが開かれ、渋民小学校の5年生40名が参加しました。これは「JA全農いわて」「JA新いわて」「イオンスーパーセンター株式会社」共同の取り組みで、今年で9年目となります。

子どもたちは慣れない足場に悪戦苦闘。最後は、泥で顔や運動着を真っ黒にしながらも「楽しかった」「またやりたい」と笑顔を見せました。なかには「家の田植えも手伝ってみたい」との声も。

秋には稲刈りや収穫した米の販売体験も予定されており、1年を通して米づくりに関する大変さや面白さを学んでいきます。



5月21日(土)

### 「岩手のまんま」田植え体験

JA全農いわて米穀部は「JA岩手ふるさと」「ライスフレンド株式会社」と共同で、田植え体験イベントを実施しました。本イベントは県産米への理解醸成を目的として平成10年に始まり、今年で19年目。イベントでは販売店のバイヤーが生産者・JA職員による指導のもと、約10㍓の圃場で田植え作業を体験しました。

栽培されたお米は「岩手のまんま」として、近畿圏のスーパー、量販店、生協、米穀店で販売されます。JA全農いわては今後も県内外の販売店と積極的に交流し、純情産地いわてを全国に広めていきます。



徐々に気温が上がり、夏らしさを感じられるようになりました。5月から「じゃじゃじゃTVde純情農園」(IBC岩手放送)がスタートし、純情むすめは暑いなか農作業に精を出しています。早いもので、2015いわて純情むすめは6月末をもって任期満了。7月からは

「2016」いわて純情むすめにバトンタッチとなります。2015いわて純情むすめのみなさん、1年間の活動お疲れさまでした! 新たなメンバーは「クララ」7月号でご紹介します。お楽しみに!

(千葉)

## 目指せ全国大会!

5月7日(土)

### 全農杯平成28年度全日本卓球選手権 岩手県予選会

JA全農いわてが協賛する全農杯全日本卓球選手権の岩手県予選会が、花巻市民体育館で開催されました。予選会には138名の選手が出場。小学6年生以下(ホープス)の部、4年生以下(カブ)の部、2年生以下(バンビ)の部に分かれ、全国大会を目指し熱い戦いを繰り広げました。入賞者にはトロフィーのほか、副賞としていわて牛ステーキなどが贈呈されました。



会場の様子。各部上位4名が7月の全国大会(兵庫県)へ出場できます

#### ◆バンビ男子の部

第1位	吉田 翔太	(中野クラブ)
第2位	南優 翔	(洋野卓球クラブ)
第3位	八重樫遥斗	(石鳥谷卓球スポ少)
第4位	田畑 智希	(矢巾卓球クラブ)

#### ◆ホープス男子の部

第1位	多田 啓佑	(花卓ジュニア)
第2位	遠藤 唯夢	(一関卓心クラブ)
第3位	佐藤 遼太	(花卓ジュニア)
第4位	佐藤 颯太	(花卓ジュニア)

#### ◆ホープス女子の部

第1位	小林りんご	(宮古Jr.)
第2位	吉田 翔花	(大和田クラブ)
第3位	瀬川 菜月	(石鳥谷卓球スポ少)
第4位	平賀愛梨沙	(花卓ジュニア)
※ベンホルダー特別推薦選手	小野寺萌寧	(猿沢スポ少)

#### ◆カブ男子の部

第1位	久保 賢輔	(矢巾卓球クラブ)
第2位	瀬川 迅風	(石鳥谷卓球スポ少)
第3位	藤原 仁	(石鳥谷卓球スポ少)
第3位	小林 レオ	(宮古Jr.)
※ベンホルダー特別推薦選手	木村 鴻聖	(飯豊クラブ)

#### ◆カブ女子の部

第1位	八重樫萌花	(石鳥谷卓球スポ少)
第2位	吉田 結	(中野クラブ)
第3位	菅原菜乃春	(一関卓心クラブ)
第3位	遠藤唯桜花	(一関卓心クラブ)

#### ◆バンビ女子の部

第1位	玉山 結愛	(石鳥谷卓球スポ少)
第2位	續石 愛	(洋野卓球クラブ)
第3位	庄司野乃佳	(雫石ジュニア)
第3位	小野寺空楽	(二戸ジュニア)

## 「第3次園芸産地確立計画」始まる

5月13日(金)

### 平成28年度いわて純情野菜販売対策会議

JA全農いわて園芸部は雫石町内のホテルで、平成28年度いわて純情野菜販売対策会議を開催しました。会議にはJA担当者、生産者、青果会社、関係機関など85名が出席。事業方針や販売対策などを話し合いました。

本年度は、JAにおける園芸生産基盤の強化・拡充を目的とした「第三次園芸産地確立計画(平成28年~30年度)」の初年度。園芸産地確立事業による支援対策を継続実施し、実需者ニーズにもとづく生産拡大推進を行います。また関係機関が連携し、生産資材・流通資材の改善ならびに輸送手段の安定的確保による効率化とコスト抑制をすすめていきます。



活発な意見交換がなされました

## 「いわて純情むすめ」新番組スタート!

5月14日(土)

### 「じゃじゃじゃTVde純情農園」第1回收録

5月から、「じゃじゃじゃTV」(IBC岩手放送)内ミニ番組「じゃじゃじゃTVde純情農園」の放送が始まりました。農業未経験のいわて純情むすめが、作物を育てるため奮闘する様子をお届けしていきます。記念すべき第1回收録ではトマトやエダマメ、スイカなど6品目を植え付け、菊池幸見アナ、風見好栄アナ、アドバイザーの小谷地さんと一緒に作業をおこないました。「純情農園」コーナーは5月から12月まで月1回、計8回を放送予定です。農園の様子は純情むすめのfacebookでも報告していきます。



左から菊池アナ、風見アナ、小谷地さん、2015いわて純情むすめ



健やかなライフスタイルづくり



# JAの人間ドック

ご案内

どなたでも受診できます。お申し込みは最寄りのJAもしくは、JA岩手県厚生連までどうぞ。

## 一日人間ドック



### JAの一日人間ドック 特徴

- がん・脳血管疾患・心臓疾患など生活習慣病を中心とした約70項目を検査。
- 年間約100例の各種がんを発見(追跡調査結果から)。
- 市町村が実施する各種検診を一日で検査(一部を除き当日判明)。
- 脳MRI・MRAや腫瘍マーカー・超音波・ピロリ抗体などオプション検査も充実。
- JA指定日は送迎対応。県内32市町村制度にも対応。

### 検査料金 (消費税8%を含む)

基本料金 **48,600円**

➔ JA取扱い料金

# 41,040円

※市町村およびJAからの補助・助成については、最寄りのJAまたは市町村担当課にご相談ください。

## 専門ドック



### 脳ドック

MRI・MRA 検査を中心とした脳専門のドックです。

＜所要時間：約150分＞

**59,400円**

### 肺ドック

肺全体を隈なく撮影できる検査を中心とした肺専門ドックです。

＜所要時間：約90分＞

**35,964円**

### 心臓ドック

心筋梗塞等心疾患を早期に発見する心臓専門ドックです。

- ホルター心電図検査(オプション)

＜所要時間：約150分＞

**35,964円**

### レディースドック

女性が気になることを細かくチェックする女性専門のドックです。

＜所要時間：約120分＞

**21,600円**

人間ドックセンター(盛岡)での受診となります。

検査時間	8:00~8:30	8:30~	11:00~	13:00~15:30
●所要時間：約7時間	受付	検査	昼食(健康定食)	診察・健康支援

JA岩手県厚生連 人間ドックセンター



JA岩手県厚生連 人間ドックセンター

〒020-0834 盛岡市永井14-42  
☎019-637-1910 FAX019-637-1964

JA岩手県厚生連 県南センター

〒029-4503 胆沢郡金ケ崎町西根前野209-1  
☎0197-44-5141 FAX0197-44-5144

JA岩手県厚生連 県南センター



岩手県内JA・JA岩手県厚生連 (検査機関:公益財団法人 岩手県予防医学協会)



私たち全農グループは、**生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋**になります。

- 私たちは「安心」を3つの視点で考えます。 —
- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
  - 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
  - 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

